

採 択 年 度

2016 年度

氏 名

奥川 喜永

所 属 機 関

伊賀市立上野総合市民病院 腫瘍外科・緩和ケアチーム

課 題 名

エピゲノムから考案した、がん悪液質患者における非侵襲的 biomarker とあらたな治療法の開発

助 成 額

500,000 円

研究報告概要

悪性腫瘍の進行に伴う体重減少は、癌悪液質と表現され、食欲不振、骨格筋量減少を呈する病態であり、癌終末期において Quality of life の低下を引き起こす。この病態は Pre-Cachexia, Cachexia, Refractory cachexia とする病期分類が認識されつつあるが、癌悪液質を早期診断しうる非侵襲的バイオマーカーの確立は、栄養療法の早期介入につながるほか、癌終末期患者の予後予測マーカーや、癌悪液質に対する新規治療標的にもなりえるため、Quality of death の改善につながる可能性がある。

我々は近年、消化管悪性腫瘍患者の血清 miRNA を用いた早期診断・予後マーカーに Focus し、研究をすすめてきた経緯がある(下図参照)。本研究では、癌悪液質診断に有用な血清中 miRNA 群を同定し、新たな非侵襲的診断・予後マーカーパネルを確立するのみならず、癌悪液質の機序解明と新規治療法開発を目的とする Three way approach を行い、終末期癌患者やその家族に質の高い Quality end of life care を提供することを目的とする。

研究方法として、終末期癌症例の Pre-Cachexia, Cachexia, Refractory cachexia の各病期血清を用いて網羅的解析を行い、癌悪液質診断に有用な miRNA 群を同定する。これらの候補 miRNA を、多数サンプルの血清を用いて解析し、悪液質診断能・病期分類・予後予測パネルの有用性を検討する。また、癌悪液質関連 miRNA に対する新規治療法を検索するために、マウス癌悪液質モデルに、miRNA 阻害剤等を投与し、悪液質改善効果を検討し、またその miRNA の標的遺伝子を同定する。本研究は、当院倫理委員会の承認を得た上で行い、文章をもって患者本人に同意をえるほか、動物実験は三重大学動物実験に関する指針に則って行われる。